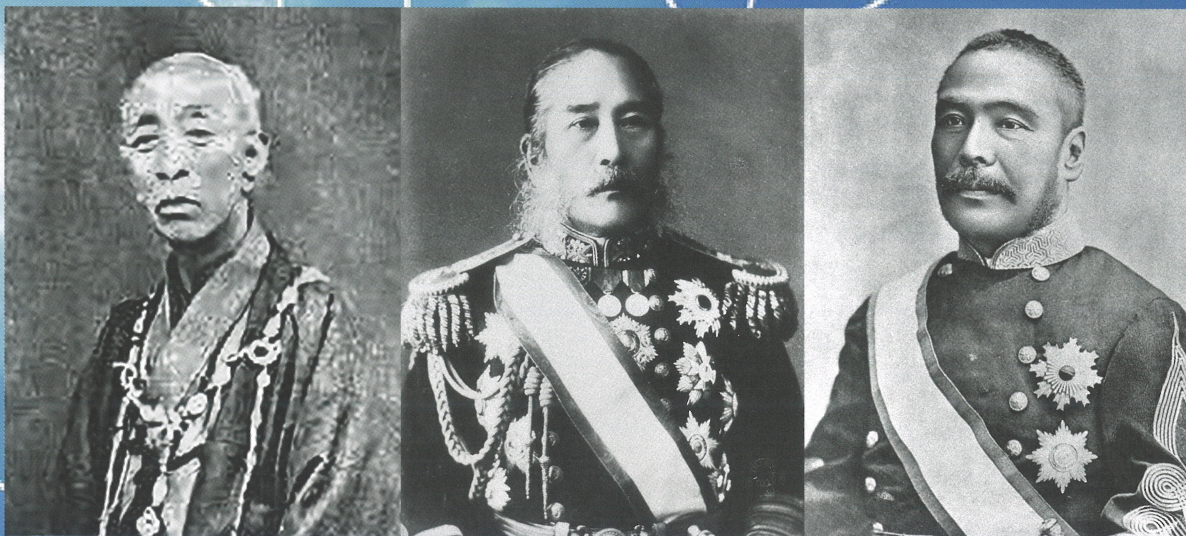


第32期特別記念展

蝦夷地から 北海道へ

時代の群像の書 展

令和5年12月7日(木)～6年3月31日(日)



小原道城書道美術館

札幌市中央区北2条西2丁目 札幌2・2ビル2階

入館料：300円（大学生以下無料）

休館日：月曜日、年末年始（12月18日～1月8日）

ART
GALLERY
HOKKAIDO

アートギャラリー北海道

蝦夷地は、長く松前藩の支配地だったが、その領地開発は道南に限られ、その他の広範な地域はアイヌ民族や場所請負漁業者に委ねられていた。しかし、北辺からの脅威や開国・開港への対処のために、安政元（一八五四）年、江戸幕府の支配となり箱館奉行所が設置された。箱館奉行には優秀な人材を集め、蝦夷地巡回や有識者の建言などを元に、蝦夷地の計画的な開発を始めた。

戊辰戦争により、政権が明治政府に移ると、北辺の脅威の深刻化もあいまって、北海道開発は最重要課題の一つとなり、北海道開拓使が設置された。場所請負制の廃止や分領支配、アイヌ民族同化政策など、試行錯誤を繰り返しながら、お雇い外国人などの力も借りて、急速な近代化施策を推進した。

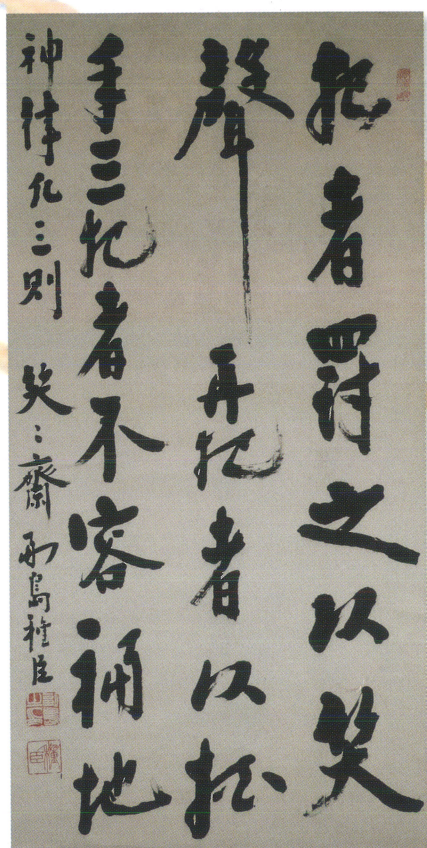
当展では、松前藩の蠣崎波響、箱館奉行の堀利熙、北方探検家の松浦武四郎、箱館戦争の榎本武揚・大島圭介、開拓使長官の東久世通禧・黒田清隆、開拓官僚の島義勇・松本十郎、北海道庁長官の岩村通俊・北垣国道、札幌農学校の佐藤昌介・新渡戸稲造など、それぞれの時代に、最先端で北海道の進むべき道に携わってきた人々二十五名の書画四十三点を展覧し、北海道を形成してきた人物群像とその時代を振り返る。なお、十二月十八日（月）～一月八日（月）は年末年始休み。



松浦武四郎・風餐露臥



黒田清隆・處和



副島種臣・把者罰之

こはらどうじょう 小原道城書道美術館

〒060-0002

札幌市中央区北2条西2丁目41

札幌2・2ビル2階

お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）

開館：午前10時～午後5時

休館：毎週月曜日

交通：JR札幌駅より徒歩5分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩5分

